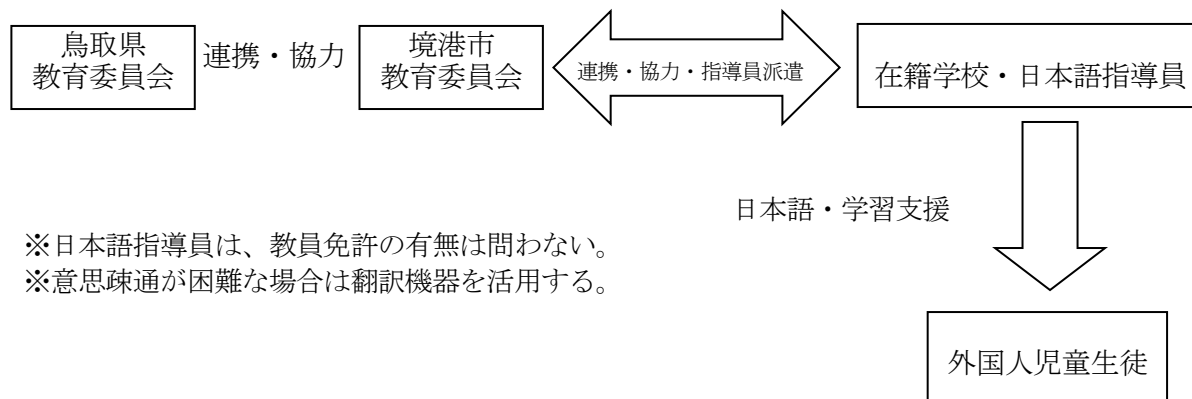


令和2年度 帰国・外国人児童生徒等教育の推進支援事業
 (I 帰国・外国人児童生徒等に対するきめ細かな支援事業)
 事業内容報告書の概要

令和2年度に実施した取組の内容及び成果と課題

1. 事業の実施体制(運営協議会・連絡協議会の構成員等)



2. 具体の取組内容 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

・対象児童生徒

令和2年度: 中学2年生1名(A中学校)、中学3年生1名(B中学校)

※外国人児童生徒の在籍する学校へ指導員を派遣。A中学校に週2日(10月～12月)、
 B中学校に週3日派遣。

※学校、指導員、市教委の三者で連携・協議を行い、指導方針の確認、成果、課題の共有を行った。

・A中学校

10月から12月までの3か月間、火、金の2日間派遣した。1日につき火は45分間、金は3時間45分の勤務を基本とした。国語の取り出し授業1時間と次回の教材等の準備を行った。

・B中学校

火、木、金の3日間派遣した。1日につき3時間から4時間の勤務。国語の取り出し授業1時間。
 TTによる学習支援1時間。次回の教材等の準備等の準備を行った。

・向こう3カ年を見据えた域内における「指導員派遣」のイメージ

令和2年度: 2名 (対象生徒2名)

令和3年度: 該当児童生徒なし(必要に応じて派遣)

令和4年度: 該当児童生徒なし(必要に応じて派遣)

4月: 児童生徒の課題の把握と日本語指導の実施について三者で協議

7月: 1学期指導内容の反省及び夏季休業、2学期の指導内容の打ち合わせ

12月: 2学期指導内容の反省及び3学期の指導内容の打ち合わせ

2月：年間指導の評価及び次年度に向けての課題の共有と教育課程の作成

- ・「特別の教育課程」実施のためのカリキュラムマネジメントについて理解し、指導者及び支援者の役割を明確にした個別の指導計画を立案するよう努めた。
- ・個別の指導計画の実施・見直し等のPDCAサイクルにより、対象児童の日本語力や在籍学級への参加意欲が向上した。
- ・初期の日本語指導、学校生活の適応などを支援するための日本語指導員を派遣した。
- ・同時通訳機器を活用した。
- ・1年間で 1,520 円/h×1名×312,75 時間 派遣した。

3. 成果と課題 ※取り組んだ実施事項(1)～(13)について、それぞれ記入すること

- ・1日に2校を兼務し、移動をする場合の移動時間の確保と時間割の調整に苦慮した。
- ・次年度に向けて、指導計画の策定を行い、確実に来年度の職員に引き継がれるように努める。
- ・ティームティーチングでの指導を行う際、授業中にどこまで支援を行うことが必要となるかの判断が難しい。該当生徒の自尊心を損なうことのないよう、本人、保護者との十分な連携がさらに必要である。

	小学校	中学校	義務教育 学校	高等学校	中等教育 学校	特別支援 学校
日本語指導が必要な児童生徒のうち、特別の教育課程で指導を受けた児童生徒の割合	0%	100%	%	%	%	%
うち、個別の指導計画の指導目標が達成できた児童生徒の割合	0%	50%	%	%	%	%

4. その他(今後の取組予定等)

- ・今後も校長会にて情報提供を行い、転入等で年度途中においても日本語指導を必要とする児童生徒の受け入れ体制を整えたい。

※枠は適宜広げること。(複数ページになっても差し支えない) 成果物等があれば別途提出すること。